

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月5日～11月11日)

2019年11月13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、アラブ首長国連邦を訪問し、首脳陣と会談(11/5～7)
- 日本、ベラルーシの3病院に対し、医療機器購入のための資金協力を実施。
- ロシア紙『コメルサント』、「露・ベラルーシ統合ロードマップ、半数以上は合意済みである」と報道。

大統領動静

(大統領府公式ホームページ 11/11)

●オーストリア公式訪問(11/11)

翌12日、アレクサンダー・ファン・デア・ベレン大統領と少人数および拡大会合を予定。その他、ヴォルフガング・ソボトカ・オーストリア国民議会議長、クルツ国民党首との会談も予定。

(11/11 大統領府公式ホームページ)

●アラブ首長国連邦(UAE)の首脳と会談

1 ムハンマド・ビン・ラシド・マクトムUAE副大統領兼首相、ドバイ首長国アミール首長と会談(11/5)

両者は、輸送分野や金融分野における有望な案件に関する協議を行った。UAEの支援によるミンスクにおける金融センターの開設案件について構想策定が完了する見込みである。両者は二国間投資協力の継続や農業分野に関する議論を行った。UAEはベラルーシの情報通信技術の発展に強く関心を持っている。

(大統領府公式ホームページ 11/5)

2 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼連邦軍副最高司令官と会談(11/6)

両者は、同皇太子ベラルーシ訪問時に合意に至った事項の進捗を確認した。両者は、農業や産業、銀行関連、輸送ロジスティクス、人道分野、スポーツ分野に関する相互協力に関し協議を行った。また両者は、中東情勢や国際情勢についても協議を行った。両国関係を構成する一つが、軍事技術協力であり、この文脈において、軍事研究、教育、共同訓練の実施、経験共有等、UAEが関心を持つ分野における対話の拡大に関し表明された。

3 タフヌン・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーンUAE国防顧問と会談(11/7)

両者は、AIやAIの他分野への応用について協議を行った。ルカシェンコ大統領は「AIについて全て分かっている訳ではない。全員が分かっている訳はない。AI擁護者も、開発者も、AIが最終的に何をもたらすか分からない。ただ、全世界がAIの活用に向けて動いている。UAEは、AI発展に巨額の投資を行っている。ベラルーシの訪問団にUAEのAIの発展度合いを披露頂くことは、格別な尊敬に値する。なぜならば、この分野は閉鎖的であり、どの国も、それぞれAIの創造物を隠したがるためである。貴国の開放性を高く評価する。」

(大統領府公式ホームページ 11/7)

外交

●日本、ベラルーシの3病院に対し、医療機器購入のための資金協力を実施。

ベラルーシの3病院が、日本政府のプログラムである「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によって22万ドルを超える資金を手に入れた。大統領官房人道支援局において無償資金の拠出に向けた契約の署名式が行われた。

拠出される資金使途は、最新医療機器の購入のためである。ゴメリ州遺伝子診断医療センター「結婚と家族」はコルポスコープ(腔拡大鏡)を、グロドノ州感染病院とグロドノ市緊急病院は超音波診断装置一式を購入予定。

徳永博基特命全権大使は、「今回の契約の後、総

案件数は 50 件を超え、総支援額は 4 百万ドルを超える」と述べた。

チェルニシヨフ大統領官房人道支援副局長は、「草の根・人間の安全保障無償資金協力によって、資金提供を受けた団体は 200 を超える。全ての支援は、税金対象外である。我々の国では 11 月 7 日に向けて贈り物を渡すという長年の伝統がある。これらの贈り物は、健康のためである。重要なのは、適時に病気を診断することである。草の根プロジェクトは 15 年間、我々を支援している」と述べた。

(11/9 ソヴェツカヤ・ベラルーシ)

●ベラルーシと日本は医療機材調達に関わる3つの資金提供契約を署名

スカクン大統領官房人道支援局局長は、「日本のベラルーシにおける社会的、人道的に重要な案件の実現に対し感謝する。地理的な距離にもかかわらず、両国は、経済分野、文化・スポーツ分野、チェルノブイリ原発事故被害克服の分野、医療や学問分野等において、長年の友好関係を築いてきた。15年続く草の根プロジェクトは、両国の密接な関係の基礎である。」と述べた。

徳永大使は、「日本政府は、ベラルーシにおいて 2004 年から草の根・人間の安全保障無償資金協力を行っている。現在、既に総案件数 48 案件、総額 3, 8 百万ドルに及んでいる。ベラルーシ全土で 200 を超える団体が、必要な医療機材を受け取っている。」と述べた。

今回の契約を考慮すると、総案件数 51 案件、総額 4 百万ドルを超える。

(11/6 ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、ベラルーシの外務大臣として初めてスウェーデンを公式訪問し、東方パートナーシップ 10 周年のハイレベル会談に出席。

マケイ大臣の発言要旨は以下の通り。

・東方パートナーシップは、具体的な結果を目的とした安定と繁栄の場になる必要ある。その場合、EUは、東方パートナーシップが成功したとすることができる。

・EUに対しベラルーシのWTO加盟交渉の支持、そして新たな基礎となる合意書の策定開始を要請する。

・東方パートナーシップの国々からの商品の欧州市場へのアクセス緩和や欧州企業、東方パートナーシップ企業間の製造協業への尽力の合理性を強調する。

同日、マケイ外務大臣は、アン・リンデ・スウェーデン外務大臣、アンドレアス・ヌルレン・スウェーデン議長と会談を行った。

(11/5 ベラパン通信)

【経済】

【対外経済】

●ロシア紙『コメルサント』、「露・ベラルーシ統合ロードマップ、半数以上は合意済みである」と報道。

『コメルサント』は、露・ベラルーシの統合問題に関し、関係者へのインタビューを実施したところ「31 項目のロードマップのうち、過半数の 16 項目では両国の合意が済んでいる。残部のうち大部分が 11 月 19 日に向けて作業が進んでいる。11 月 19 日に連合国家閣僚評議会が予定されており、メドヴェージェフ露首相とルマス・ベラルーシ首相が会談を行う見込みである。同閣僚会議にて、残項目のうち 7~8 件が協議される。ガス、石油、石油製品等エネルギー分野の統一市場の形成や原子力発電の発展、農業分野については両国首相間で協議される。税法に関して、2021 年 4 月に統一税法典が導入される予定であるが、ベラルーシ側が合意していない。」と報道した。

(11/8 ベラパン通信)

●ベラルーシの木材・紙材コンツェルン「ベルレスブムプロム」、輸出量 5%増加。

同コンツェルンの 2019 年 1~9 月の輸出量は 4 億 2530 万ドルで、昨年同期対比 5%増加した。仕向地は 15 カ国増加し、総数 69 カ国。商材毎の輸出量は以下の通り。

家具: 8900 万ドル

木板(ファイバーボード): 7740 万ドル

紙材: 6600 万ドル

合板: 4750 万ドル

木版(パーティクルボード): 4360 万ドル

紙パルプ: 3290 万ドル

(11/9 ベラパン通信)

●ベラルーシカリと中国Migao社、硝酸カリ製造工場「ベルカリMigao」の操業開始。

同工場における年間生産高見込みは 16 万トン。ベラルーシ国内だけではなく、中国、トルコ、ロシア、欧州等の輸出向けとして生産される。硝酸カリ以外にも、塩化アンモニウムやリン原料が生産される。同工場設立により、世界の硝酸カリ生産におけるベラルーシのシェアは約 5%となる。

(11/8 ベラパン通信)

●アナトリー・ホチコ・ベラルーシ農業・食糧大臣、中国訪問。

第2回中国国際輸入博覧会の視察およびリ・ゴ中国税関総署副所長との会談を実施。リ・ゴ氏との会談で、両者はベラルーシ製品の中国市場への参入拡大に関し協議を行い、新たなベラルーシ産農業・食料品の認証手続きの開始につき合意した。さらに、ベラルーシ産鶏肉の検疫要件に関する協定に署名した。

(11/5 ベルタ通信)

●ベラルーシ企業、第2回中国国際輸入博覧会の開始数日で、総額1億5千万ドル相当の契約に署名。

ベラルーシからは、麻繊維や紙パルプ、農業機械、輸送機械の企業を中心に、100 団体が出展した。なお、博覧会全体では 155 カ国から 3500 団体が出展した。

(11/6 ベルタ通信)

【国内経済】

●ベラルーシ、2019年1~9月のインフレ率、3.9%

(11/11 ベラパン通信)

●ルマス首相、対外債務について発言。

ベラパン通信のインタビューに対するルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・2020 年内の対外債務急拡大は予定されていない。
・来年末にかけて、GDPに対する対外債務割合は、現在の 36%から 37.8%に拡大する見込み。

・原子力発電所やバイオ技術企業に対する融資を選択するため、短期的に見れば対外債務は増える見込み。

・中期的には、対外債務は現在と同水準に落ち着く見込み。国営企業の大きな民間案件は政府保障では行わない。それは我々を勇気づけ、かつ対外債務の拡大はないことを語っている。

(11/5 ベラパン通信)

●ルマス首相、閣僚会議で「政府はベラルーシ経済状況を受け入れられない」と発言

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・今年もあと残り 2 ヶ月しかなく、これまで何らかの理由で活用されていなかったリソースを使用できる時間は非常に少ない。

・良い傾向としては、マクロ経済のバランス維持が挙げられる。インフレ率は、予定範囲内に収まり、貿易黒字は 5 億 2 千万ドルを超えており、為替政策は安定的に機能している。

・対外債務の返済は、適時に行われている。金保有高は、年初から 20 億ドル増加し、92 億ドルに到達した。また国民の収入は、1~8 月で 6.8%も拡大している。

・しかし、労働生産性や輸出、GDP成長率等の重要経済指数の目標値は達成されていない。GDP成長率の低下は、経済における重要な分野におけるネガティブな動きに起因する。産業の成長速度が遅くなっている。1~9 月までの産業製造高は前年同期比 100.7%。産業製造の低下は、輸送サービスや卸の売上を引き下げた。

・従業員の月給が 400 ルーブルを下回る国営企業が 9 社あると判明。次のステップとして、500 ルーブルを下回る企業について調査していく。今回が最後の注意喚起である。進展がなければ、政府として大統領

に責任者の降格を提案するであろう。

・労働生産性改善速度と昇給速度のギャップの解決について、政府は本課題を避けることはない。特に国営セクターにおける労働生産性の低さは我々の経済にとって大きな問題である。

・食糧品の輸入拡大を懸念する。チョコレート輸入額は30%、小麦輸入額は2倍、ビール輸入額は19%、飲料水輸入額は6%の増加となっている。

(11/5 ベラパン通信)

軍事・治安

●プロガー兼Telegramチャンネル『Nexta』の立案者、ステパン・プチロ氏、市内中心部でピケ実施。

プチロ氏は、同チャンネル登録者や他の政治系プロガーへピケ参加を呼びかけ、数百人が参加した。ピケはオープンマイク形式で行われ、希望者は全員発言機会を得られた。ピケでは、選挙の不公正さ、選挙活動への社会的監視の必要性、偽造や国家予算の非効率な使用等について取り上げられた。

(11/8 ベラパン通信)

●ベラルーシ・英国国防省、2020年の協力計画に署名(11/5)

(11/7 ベラパン通信)

(了)